

タイトルル…『汐製菓会社の新作106 せんべい
』

第一幕…プロローグと発端（約20 分）

シーン…奇想天外な社長登場（5分）

（場所…汐製菓会社の会議室。壁には数々の
奇抜なパッケージが飾られている。「世界一の
煎餅を作る！」と書かれたスローガンが目立
つ。）

社員A:「えーっと、前回の『カレー味チョコ煎
餅』の売上ですが…：うーん、振るいません
ね。」

社員B:「まあ、あれは社長の“インド旅行の
感動”から生まれた商品ですから…：。」

（場面にふさわしくないほど明るく扉を開ける音。）

汐：「おお、今日は元気がないじゃないか！何か面白いことでも話してみろ！」

（社員たちが困ったように顔を見合わせる中、秘書の塩田が入室する。）

塩田：「社長、そんな無茶振りをしないでください。」

汐：「お、塩田！面白いことなら君が一番得意だろう？」

塩田：「いえ、私は真面目に仕事をしているだけですよ。」

（汐、満面の笑みで大きく手を広げる。）

汐：「では、今日の議題だ！新しい煎餅を作るぞ！」

社員○：「また煎餅ですか……？」

社員△：「いや、製菓会社だから煎餅でいいんだけど、また奇抜な方向じゃないですよね？」

（社員たちがざわざわと心配する中、汐が白板に「梅干し味」と書く。）

汐：「次はこれだ！梅干し味煎餅！」

（場内が一瞬静まり返る。）

塩田：「……また、胃腸に負担がかかりそうですね。」

社員□：「え、でもそれ、本当に売れるんですか？」

汐：「売れるかどうかじゃない！面白いかどうかだ！」

塩田：「社長、面白さだけで商品を作るのはどうかと……。」

汐：「塩田！人生も商品も酸いも甘いもなければ面白くないだろう？」

塩田：「そもそも商品に甘みなんてありますか？」

（汐、得意げに微笑む。）

汐：「あるさ。米の甘さがな！」

（社員たちが困惑しながらメモを取り始める。）

シーン②：試作品開発の苦闘（10分）

（場所：汐製菓会社の製菓研究室。社員たちが試作品を作っている。様々な煎餅が並ぶ中、汐が試食を始める。）

社員D：「こちらは、梅干しエキスをベースにした煎餅です！」

（汐が一口食べる。）

汐：「うん、これは……ただ酸っぱいだけだな！」

（社員ロがショックを受ける。）

社員ロ：「じゃあこちらは、梅干しの果肉を練り込んだ煎餅です！」

（汐がまた一口食べる。今度は顔をしかめる。）

汐：「これだと、ただのご飯に梅干しを乗せた感じじゃないか！」

塩田：「社長、それって普通に美味しいんじゃないですか？」

汐：「美味しいだけじゃダメなんだ！驚きがないと！」

（塩田がため息をつきながら胃薬を取り出し、汐に差し出す。）

塩田：「驚きすぎて胃を壊すのもどうかと……。」

（社員たちが次々と試作品を持ってくるが、どれも汐にダメ出しされる。）

汐：「酸味！塩味！甘味！この三つが完璧に融合しないと意味がないんだ！」

（社員のがポツリとつぶやく。）

社員の：「いや、そんなに言うなら自分で作ってみてほしい……。」

（汐が笑顔で前に出る。）

汐：「よし、俺が自ら究極の煎餅を作る！」

シーン3：試食イベントの準備（5分）

（場所：汐製菓会社の会議室。パッケージデザイン案を社員全員で討論している。）

社員A：「こちらは梅干しのイラストを大胆に使った案です。」

塩田：「シンプルでいいですね。」

（汐が即座に却下。）

汐：「却下だ！目を引かないだろう！」

社員B：「ではこちら、『酸味の戦士』をテーマに、梅干しが鎧を着たイラスト案です。」

塩田：「……一体、誰に向けて作ってるんですか？」

汐：「全員だ！子供も大人も、外国人観光客もな！」

（塩田が不安そうに首をかしげるが、社員たちは満場一致でこの案を採用する。）

第2幕：試食イベントと対立

シーン4：試食イベント開始（10分）

（場所：ショッピングモールの特設会場。和風の屋台風ブースに「酸味の戦士！」の巨大な垂れ幕が掲げられ、和楽器のBGMが流れる。ブースには梅干し型のバルーンが飾られ、異様に目立つ。）

司会者：「皆さん、お待たせしました！ここで汐製菓の新作、『酸味の戦士！梅干し味煎餅』の試食会を開始します！」

（周囲の人々が興味津々に集まり始める。）

汐：（壇上に立ち）「さあ、日本の伝統と大胆な発想が融合したこの煎餅！食べたなら生観が変わるぞ！」

塩田：（隅で呟きながらメモ）「人生観が変わる煎餅って……またハードル上げすぎてる。」

（最初に試食するのは日本人のおばあちゃん。）

おばあちゃん：「どれどれ……。」「(煎餅を一口食べる)「おお！懐かしい梅干しの味！でも、これ煎餅としてもちゃんと美味しいね！」

汐：「ありがとうございます！そう、これは懐かしさと新しさの融合なのです！」

(次に、小学生の兄妹が試食する。)

兄：「んー、ちょっと酸っぱいけど、お菓子って感じじゃなくて……。面白い味！」

妹：「私、これ好きかも！」

塩田：(小声で)「お菓子って感じじゃない、っていうのは褒めていいのか……？」

シーンの：外国人観光客との衝突(15分)

(次に試食するのは観光で訪れた外国人グループ。英語圏、アジア圏、ヨーロッパ圏の観光客が混じっている。)

観光客 1 (アメリカ人男性) : 「Oh, what's

this? Japanese rice cracker with... sour

plum? Sounds weird, but okay, I'll try it.」

(彼が一口食べた瞬間、顔が一気に歪む。)

観光客 1 : 「What is this? It's so sour! Is

this even food?」

観光客 2 (フランス人女性) : 「(煎餅を眺め

ながら) Ça sent bizarre...」

観光客 3 (中国人男性) : 「這個……太酸了

吧？」

(会場が微妙な空気に包まれる中、汐が前に出る。)

汐 : 「皆さん、確かに酸っぱいかもしれない！

だが、酸っぱさだけではない！」

(観光客たちが困惑顔で見つめる中、汐が力説を始める。)

汐：「この煎餅には、日本人が何百年も大切にしてきた味覚のバランスが詰まっているんです！酸味、塩味、そしてほのかな甘味！これは人生そのものを表している！」

観光客 1：「Life? What does this cracker have to do with life?」

汐：「人生には酸いことも甘いこともありませう！この煎餅を食べれば、そうした全てを一緒に楽しむ心の余裕を学べるんだ！」

塩田：（小声で）「煎餅にそこまで深いテーマが……？」

（汐の熱弁に触発された日本人観光客たちが拍手を送り始める。）

観光客 2（フランス人女性）：「Hmm... Peut-être qu'il a raison.」（フランス語字幕：「彼の言うことには一理あるかも」）

観光客 ③ (中国人男性) : 「讓我再試一次
……」 (中国語字幕 : 「もう一度試してみよ
う……」)

(観光客たちがもう一度煎餅を口にする。)

観光客 1 : 「Okay... I see what you mean.

It's not just sour. It's... balanced.

Unique.」

観光客 2 : 「C'est intéressant.」

観光客 3 : 「嗯，不錯。」

(観光客たちが笑顔になり、会場が和やかな
雰囲気にも包まれる。)

シーン 6 : SNS のバズ (5分)

(場所 : 汐製菓のオフィス。塩田がスマホを見
ながら驚く。)

塩田：「社長！『#酸いも甘いも煎餅』がSNSでトレンド入りしてます！」

汐：「ほら見ろ、言った通りだ！」

（社員たちがSNSの投稿を次々と読み上げる。）

社員A：「『サムライスナック、酸っぱいけどクセになる』。」

社員B：「『人生が詰まった煎餅、初めて食べた！』。」

社員C：「『まさか日本でこんな革命的なお菓子に出会うとは…』。」

（汐が笑顔で両手を広げる。）

汐：「これが俺たちの力だ！」

第6幕…クライマックスとエピローグ

シーン7：国際食品展示会（15分）

（場所…国際食品展示会。世界中から集まったバイヤーや観光客が集まっている巨大なホール。汐製菓のブースには、「酸味の戦士」煎餅の大きな看板が飾られ、スタッフたちが試食を進めている。）

汐…「さあ、今日は世界の味覚に革命を起こすぞ！日本から、いや、世界中の人々に、酸いも甘いも煎餅を伝えよう！」

（周囲のバイヤーたちが興味深そうに試食している中、汐がどんどん前に出て熱心に説明を始める。）

汐…「この煎餅には、酸っぱさだけでなく、心の奥底から湧き上がる感動が詰まっています！」

（外国人バイヤーが煎餅を口にし、すぐに顔をしかめる。）

外国人バイヤー：「Oh, that's... sour. Too

sour!」

（汐が素早く対応。）

汐：「ああ、最初は驚くかもしれませんが、でも、酸っぱさはただの表現です。その背後にあるバランスを理解すれば、きっとあなたの心をつかむはずです！」

（別のバイヤー、ヨーロッパから来た男性が試し、しばらく黙って考える。）

ヨーロッパのバイヤー：「Hmm... it's unusual,

but there's something unique about it.

It's not like anything we've tasted

before.」

（汐が大きな声で言う。）

汐：「それこそが日本の伝統と現代の創造性が融合した力なんです！」

(バイヤーたちが少しずつ頷きながら、試食している他の人々の反応を見ている。)

(しばらくして、アメリカのバイヤーが大きな声で呼びかける。)

アメリカのバイヤー：「Wait a minute... This is brilliant! It's different, but in a good way! There's a perfect balance of flavors. The sourness is bold, but it leaves you wanting more.」

汐：「そうです！まさに、一度食べたらずめられない！日本の食文化を、世界の味覚として進化させたのです！」

(他のバイヤーたちも一斉に賛同し、興奮した声が広がる。)

アジアのバイヤー：「面白い！これ、日本のスナックとして新しい流れを作りそうだ！」

（展示会場内が賑わい始め、汐製菓のブースに人が集まりだす。）

塩田…（隣で焦っている）「社長、あの、ちよつと…みんな食べ過ぎてるような…」

汐…「大丈夫！これが食文化の革命だ！」

（その時、テレビカメラが近づいてきて、展示会の様子を撮影し始める。）

カメラマン…「こちら、汐製菓さんの新しい商品、梅干し味煎餅が話題となっています！この煎餅、ただ酸っぱいだけではないその魅力に迫ってみました！」

（カメラがクローズアップで映し出す。「酸味の戦士」のパッケージデザインが、国際的にも注目を集めている様子が映る。）

シーン⑧…次なる挑戦（10分）

（場所…汐製菓会社のオフィス。汐が社員たちに向かって次の新商品を発表している。）

汐…「さあ、皆！『酸味の戦士』は大成功だったな！次は、わさび味煎餅だ！」

（社員たちが一斉に顔をしかめ、困惑した顔を見せる。）

社員A…「わさび…味…？」

塩田…（目を瞑りながら）「社長、お願いですから、もう少し穏やかな味の方で。」

汐…「いや、塩田！人生は挑戦だ！次は世界を驚かせるぞ！」

社員B…「社長、いつも驚かされてばかりなんです…。」

（社員たちがため息をつきながらも、どこか楽しそうに協力し始める。）

社員の：「でも、社長が言う通り、何か新しいことをやらないと、他の企業と同じになっちゃうもんね。」

汐：（ニヤリ）「その通りだ！次はわさびの新たな挑戦だ！これで世界を制覇するぞ！」

（塩田が心配そうに横目で見つめる中、社員たちが少しずつ前向きになりつつある様子。）

塩田：「……また、やるんですね。」

汐：「もちろんだ！面白いことをするから！そ、この会社は楽しいんだよ！」

（汐がガッツポーズをし、社員たちも少しずつ笑顔に。カメラが引いて、オフィスの全員が次の大冒険に向けて動き出す様子が映し出される。）

（画面がフェードアウトし、エンディング音楽が流れる。）

エピローグ

ナレーション(冗談めかして)：「世の中には、酸いも甘いも兼ね備えた煎餅が存在することを証明した汐製菓。その挑戦はまだ始まったばかり。次は、わさび味？それとも、チヨコレート味の唐辛子？果たして、次に待ち受ける試練に、社長と社員たちはどう立ち向かうのか……?」

エンディングロール

(フィクションに出てきたキャラクターたちが、製品名やパッケージ、試食イベントの風景などと共にスクリーンに流れる。)